

どんぐい村の こみ・すく通信

令和5年9月11日発行 令和5年度 第11号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

今年ひまわり畑迷路

8月31日、上更別小学校4年生～6年生が更別農業高校が制作した「ひまわり迷路」を訪問し、実際に迷路を体験しました。更農生と一緒に回った後、とても楽しかったらしく、何回も迷路を回っていました。



【村長とともに迷路に入る】



【集合写真の前に】

みんなの学校応援団の活動を紹介<その1> みんなが安心して過ごせる村に 福祉を学ぶ

中央中学校 1年 8月22日

保健福祉課保健師の藤田さん、社会福祉士の佐々木さんに来校いただき、認知症サポーター養成講座を受けました。

認知症は脳の病気であり、誰がなってもおかしくないものであること、周りからのちょっ



とした声かけで認知症の人でも安心して行動できることを学びました。また、認知症かもしれない家族の人に対してどんな対応をすればよいのかを、寸劇をもとに教えてもらいました。

その後、高齢者・片麻痺体験、車椅子体験をすることによって、いろいろな立場の人の身になって考えることができました。

更別小学校 4年 8月29日



社会福祉協議会の小丹枝さん、中野さん、庄司さんに来校いただき「車椅子」を体験する「福祉の授業」をしていただきました。

車椅子介助をする時の声かけ等の仕方を悪い例と良い例を見せていただきながら、学びました。子どもたちは車椅子の介助練習の時、優しい声かけをし、相手を気遣いながら押していました。その後、車椅子でボッチャ体験をしました。福祉は「心

だんの くらしを しあわせにすること」を教えてくださいました。

上手にきく上手に伝えるスキルを学ぶ

8月23日、更別中央中学校1年生が「さらべつほーぷ」の方々に来校いただき、「誤解を避けるコミュニケーション」について学びました。

今回は、ほーぷの三浦さん(保健師)が中心となり他のメンバーと一緒に授業を進めました。

自分の考えを書く、グループで話し合うなど、たくさん学習活動を行いました。



感想から 「人の話をきく時の姿勢(態度)などが大切であり、相手の話を聞いて興味や関心、共感することによって相手とのコミュニケーションをとることができることも分かった。これからの生活で話し方や聞き方などを意識していきたい。」

職業体験の前に学ぶマナー講座

8月29日、更別中央中学校2年生がふく井ホテルの社長である林さんに来校いただき、「マナー講座」を行っていただきました。

あいさつは全ての基本であり、相手に心を開くための第一歩。身だしなみは、相手に不快感を与えないための心遣いです。特にあいさつをしっかり！



明るくはつらつと講話をする林社長